

国際シンポジウム： 空き家問題への法的対応

—アメリカ・ドイツ・フランス・日本—

【日時】 2017年2月12日(日) 13:00~18:00

【場所】 神戸大学六甲台第一キャンパス国際協力研究科大会議室

阪神「御影」駅、JR「六甲道」駅、阪急「六甲」駅から、神戸市バス36系統(鶴甲団地行、鶴甲2丁目止まり行)乗車、「神大正門前」下車

<http://www.kobe-u.ac.jp/guid/access/rokko/rokkodai-dai.html>

(ローカルマップ40番の建物)

○報告

James Kelly (アメリカ・ノートルダム大学ロースクール教授)

Arne Pilniok(ドイツ・ハンブルグ大学法学部教授)

Romain Melot (フランス・国立農学研究所専任研究員)

角松生史 (神戸大学大学院法学研究科教授)

○パネルディスカッション

報告(英語)は翻訳を配付します。討論には通訳がつきます。

入場自由(事前申込不要)

「平成25年住宅・土地統計調査」(総務省)によると、2013年10月1日現在の空き家数は約820万戸(総住宅数の13.5%)に上ります。空き家問題に対する社会的関心の高まりとともに、各地の自治体の空き家対策条例や、空家等対策の推進に関する特別措置法が成立しました。

本シンポジウムでは、アメリカ・ドイツ・フランスから報告者をお招きし、空き家問題の背景と現状、空き家発生予防策、空き家の活用と除却などに関する法的対応について、国際比較を試みたいと思います。ふるってご参加いただければ幸いです。

【主催】 科研費基盤研究 (B)「空き家問題に関する総合的・戦略的法制度の構築を目指す提言型学術調査」

【共催】 神戸大学社会システムイノベーションセンター研究プロジェクト「ニュー・パブリック・ガバナンス」

【お問い合わせ】 kado@kobe-u.ac.jp (角松生史)